

【 Runabout-GP / OPEN 】 (.Pro Runabout GP / Expert Runabout OP)

RAGPOP.1 ランナバウト GP / OP クラスコンペティション

このクラスは高度な技術と技量を競技し、競う事を目的としています。
このクラスで競技する船体は、以下の仕様に適合しなければなりません。
排気量：2000cc までのエンジン。

OP：船体同一メーカーによるエンジンを搭載しなければならない。

GP：船体 / エンジンは同一メーカーに限らない。

RAGPOP.1.1

すべての船体は本ルールにおいて交換が必要な場合または変更が許可されている場合を除き、ストック状態（全てノーマル、純正、無加工）を維持する必要がある。

ルールブックに記載されていない変更または改造はしてはならない。

※変更または改造に関する質問は競技で使用する前に JJSA に問合せください。

RAGPOP.1.2 サウンドレベル

- ・騒音レベルは、15mで 86 dB(a) を超えてはならない。
- ・レース中も騒音レベルを測ることがある。
- ・騒音レベルが高いと判断した場合、走行テストを要求し計測を行う。
チーム員、もしくはメカニックの立ち合いは1名までとする。
- ・騒音超過の場合、ペナルティーの対象になる。
- ・エンジン始動時は水中以外ではサイレンサーの使用を義務付ける。

RAS.2 船体 / ハル

RAGPOP.2.1

- ・すべての船舶には、船首に柔軟な牽引ループが取り付けられていなければならない。
- ・牽引ループは危険を生じさせないように柔軟な素材(ナイロンストラップ、ロープなど) で直径は 200mm 以上で作成しなければならない。
- ・船体の平面を越えて突き出ている牽引フックは取り外さなければならない。

RAGPOP.2.2

- ・船体の長さは 353cm を超えてはならない。
- ・最小船体幅 96.5cm / 船体幅 127cm を超えてはならない。

RAGPOP.2.3 重量

- ・乾燥重量は、280kg以上 でなければならない。

RAGPOP.2.4

- ・アッパーデッキは、純正品の基本形状に似ていなければならない。
- ・燃料キャップ純正取り付け位置から移動してはならない。

- ・社外品(フードなど)の部品や、再配置(燃料フィルターなど)または取り外しの対象となる部品には適用されません。

RAGPOP.2.5 スポンソン

- ・最大 **2つ** のスポンソンを装備できる
- ・純正スポンソンは改造 / 変更 / 削除または社外品を使用しても良い。
- ・各スポンソンの全長 **92cm** を超えてはならない。
- ・スポンソンは水平面で測定した場合、ハルの側面から **100mm** を超えてはならない。
- ・スポンソンの垂直フィンなどはベースから下方向へ **63mm** を超えてはならない。
- ・スポンソンのどの部分もハルの側面がハルの底面と交差する点よりも **38mm 以上** 下に伸びてはならない。
- ・一体物は1つとし、分割物はそれぞれ1つとしてカウントされます。
- ・社外品または改造されたスポンソンは厚さ **6mm 以上** でなければならない。
- ・危険を引き起こさないように、前縁に丸みを付ける必要がある。
- ・ハルの滑走面にスポンソンを取り付けてはならない。
- ・フィン / ラダー / スケグ等その他危険を引き起こす付属物は取り付けてはならない。

※その他変更に関する質問は競技で使用する前に JJSA に問い合わせてください。

RAGPOP.2.6 インテークゲート

- ・ゲートは改造または社外品を使用してもよい。
- ・ゲートは取り外してはならない。最低1本のバーが駆動軸と平行のタイプでなければならない。
- ・ゲートはポンプ吸入口の平面より下に **12mm 以上** はみ出してはならない。
- ・全ての前縁は危険が生じないように丸めなければならない。

RAGPOP.2.7 ライドプレート / エクステンション

- ・ポンプカバープレートは改造または社外品を使用してもよい。
- ・ポンプカバープレートの後部は延長してもよいが純正プレートの幅を超えてはならない。
- ・純正品の後端より **178mm 以上** 延長してはならない。
- ・エクステンションの側面は危険が生じないように丸めなければならない。
- ・フィン / ラダー / スケグ等その他危険を引き起こす付属物は取り付けてはならない。

RAGPOP.2.8 トリムプレート

- ・社外品のトリムプレートを使用してもよい。
- ・純正品と同じ特性を維持できるレプリカパーツのみが許可されます。

- ・危険が生じない限り、材料は指定しないものとします。(例：プラスチックの代わりにアルミニウムを使用など)。

RAGPOP.2.9 バンパー

- ・危険を生じない社外品のバンパーは使用してもよい。

RAGPOP.2.10 デフレクター

- ・危険が生じない限り柔軟なスプレーデフレクターをハルサイドまたはボンドフランジに取り付けてもよい。
- ・デフレクターのいかなる部分も標準装備のバンパーまたはサイドモールディングの周囲を超えてはみ出してはならない。

RAGPOP.2.11 ステアリング/コントロール

- ・ハンドルバー / スロットル / スロットルケーブルおよびグリップは改造または社外品を使用してもよい。
- ・ハンドルバーカバーは改造または取り外してもよい。
- ・社外品のスイッチとスイッチハウジングを使用してもよい。
- ・ステアリングシャフト / ステアリングシャフトホルダー / ハンドルホルダーは社外品を使用してもよい。
- ・ハンドルバーは取り付けブラケットにパッドを入れるか、クロスバーがある場合はクロスバーにパッドを入れなければならない。
- ・ステアリングレシオを変更する為のクイックターンステアリングの改造をしてもよい。
- ・社外品のステアリングケーブルは使用してもよい。

RAGPOP.2.12 シートアSEMBリ

- ・シートアSEMBリは変更または社外品を使用してもよい。
- ・安全上の問題を引き起こす改造は許可されていません。
- ・ライダーの脚を包み込む形状はすべて、柔らかく柔軟な素材で作られている必要があり、ライダーの各脚の 50%以上を覆ってはならない。
- ・背もたれ部分の高さは座面から垂直方向に**18cm以上**上げてはならない。

RAS.3 エンジン — 4 ストローク

RAGPOP.3.1 排気量

- ・エンジン排気量は**2000cc**を超えてはならない。

RAGPOP.3.2 エンジブロック

- ・エンジブロックは公認された船体のものでなければならない。

RAGPOP.3.3 ヘッド

- ・シリンダーヘッドの鋳造は、エンジブロックと同じエンジンアSEMBリからのものでなければならない。

RAGPOP.3.4 クランクシャフト

- ・クランクシャフトは改造または社外品を使用してもよい。
- ・クランクシャフトの重量は、純正品の5%以内でなければならない。
- ・元のタイプと寸法を維持する限り、交換用のベアリングまたはベアリングシエルが許可されます。
- ・純正排気量 **1600cc以上**のエンジンは純正ストロークを維持する必要があります。

RAGPOP.3.5 ターボ

- ・ターボチャージャーのハウジングは、クーリングシステム付きの完全ウォータージャケットタイプでなければならない。エンジン回転中は常に循環しています。

RAGPOP.3.6 OPEN RUNABOUT

- ・OPENクラスは純正メーカーのエンジンを使用しなければならない。

RAS.4 イグニッションとエレクトロニクス—4ストローク

RAGPOP.4.1 バッテリー

- ・バッテリーは交換してもよい。
- ・バッテリーボックスに収まり固定されていなければならない。
- ・バッテリー及びバッテリーボックスは社外品を使用してもよい。
- ・バッテリーについて、現在（2023年1月）検査機構では水上オートバイに**リチウムイオンバッテリー**の使用は禁じられている為、不可とする。

RAGPOP.4.2 ECU

- ・電子制御ユニットは交換 / 社外品を使用してもよい。
- ・センサーを追加する事ができます。
(例:排気ガス温度、爆発センサーなど)

RAGPOP.4.3

- ・社外品のスパークプラグを使用してもよい。

RAS.5 空気 / 燃料供給 4ストローク

RAGPOP.5.1

- ・高圧部分には日本の燃料ホース規格を満たす高圧燃料ホースを使用しなければならない。
- ・燃料噴射システムは許可されていますが、以下が必要です: すべての高圧ラインは、SAE J30R9 認定の高圧ホースを使用する必要があります。
- ・高圧ラインの燃料フィルターは金属製でなければなりません。
- ・高圧接続には、ネジ式フィッティングまたは同等の取り外し不可能な圧着式クランプを使用する必要があります。
- ・高圧ラインでは、ナイロンタイラップまたは標準のネジクランプ（ホースク

ランプ) は使用できません。

- ・燃料ポンプには、自動遮断制御スイッチを装備する必要があります。
- ・手動で作動する燃料ポンプは許可されていません。

RAGPOP.5.2 燃料タンク

- ・社外品の燃料タンクは使用してもよい。
- ・船体はエンジンが 作動 / 停止 関係なくいかなる場合も燃料を排出、こぼしてはならない。
- ・社外品の燃料タンクは、燃料タンクが純正燃料タンクの強度と安全基準以上を満たす必要がある。検査機構による承認が必要。
- ・燃料ピックアップ / 燃料フィルター / 燃料ペットコックは取外しや社外品を使用してもよい。
- ・追加の燃料フィルターを使用することができる。
- ・燃料バッフ (スポンジ等) を元の機器の燃料タンクに追加することができます。
- ・燃料タンクのフィルターキャップは、危険が生じない限り改造または社外品を使用してもよい。
- ・燃料給油口の移動は認められない。
- ・燃料フィルターは1本ものでなければならない。(2024年から)

RAGP.9.2

- ・インタークーラーは、改造または社外品を使用してもよい。

RAGP.10.1 ポンプ/インペラー

- ・インペラー / インペラーハウジング / ステーターベーンアセンブリー / ポンプ取付けプレート / ポンプシューは、改造または社外品を使用してもよい。
- ・ポンプノズルとディレクショナルノズルは、改造または社外品を使用してもよい。
- ・ポンプとノズルアセンブリの組み合わせた全長は純正品より**50mm 以内**にしなければならない。
- ・社外品のノズルトリムシステムを使用してもよい。
- ・追加の冷却フィッティングを取り付けてもよい。
- ・可視性スパウトを取り外すか停止しなければならない。
- ・ポンプ入口をシールするためにシーラントを使用することができる。

SKGP.10.2

- ・カプラー / ベアリングハウジング / ドライブシャフトは、エンジンとポンプの間で 1:1 の駆動比であれば、改造または社外品を使用してもよい。